

第6回 鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会 議事録（概要）

日時 平成28年8月24日（水）10時00分～12時00分

場所 鎌倉市役所 本庁舎2階 全員協議会室

出席 深野会長、浅川委員、大道委員、奴田委員、橋詰委員、波多辺委員、保坂委員

<事務局>

環境部 石井部長、植地次長、佐藤次長

ごみ減量対策課 内海担当課長、谷田担当課長補佐、細井担当係長、吉田担当係長、
野田担当係長、安倍職員、中村職員、大高職員

環境施設課 谷川課長、関沢課長

環境センター 佐藤担当課長、脇担当課長

傍聴者 1名

報告事項 (1) 逗子市、葉山町との広域化処理について

議題 (1) 第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画について

その他 (1) 次回の当審議会の開催日程等について

報告事項 (1) 逗子市、葉山町との広域化処理について

事務局から資料1-1「鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化に係る覚書（写し）」、資料1-2「ごみ処理広域化覚書締結に伴う第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画（素案）への反映について（案）」、資料2-3「第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画（案）」について説明した後、質疑応答を行いました。

深野会長：広域処理とそれに関して第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画に反映する点について事務局より説明がありました。ご意見・ご質問あればお願いします。

奴田委員：覚書はどのような効力がありますか。以前逗子市との間に関谷のごみ処理場の件で覚書が交わされましたが、すぐに解消されたと記憶しています。

谷川担当課長：法的な拘束力はありませんが、内容はこれから広域化を進めていくための基本的な考え方をまとめたものです。

奴田委員：覚書が強い内容であって欲しいと思います。

波多辺委員：覚書は2市1町で交わしたもので、ゼロ・ウェイストという方向性は変わりません。各市町の焼却施設については継続することを踏まえたうえで、災害時における協力を覚書で確認したということですね。

谷川担当課長：焼却についてはその通りです。葉山町も加わり広域の新たな枠組みができ、ゼロ・ウェイストの方向性について確認しました。また、焼却の部分では各市の既存の施設を使用し、鎌倉市の施設では鎌倉市のごみを焼却することを確認しています。広域の一番大きい部分は環境・財政面を配慮した効率的な廃棄物システムの構築です。その他生ごみについては共通の課題です。

波多辺委員：事業者としての意見ですが、事業系ごみについて1市だけでは採算的に難しいかもしれませんが、連携によって資源化を進めることが重要です。連携できるところから積極的に進めることが重要です。例えば、豆腐屋で出る「おから」は、処分に費用をかけず、葉山牛のえきにするといったことができると良いと思います。

石井部長：貴重なご意見だと思います。広域化というと施設の部分が目立ちますが、事業系生ごみ処理は共通の課題でした。食品リサイクル法の登録再生利用事業者は近隣にありませんので、遠くへ出さざるを得ず、資源化に結びつかないという同じ悩みを抱えています。2市1町で検討して何かできないかというところが、基本方針4になります。知恵を出し、食品リサイクル法という大きな視点で考えるならば県も巻き込みながら、処理方法も含めて、できれば近くへの登録再生利用事業者の誘致を検討したいと考えています。

大道委員：鎌倉市・逗子市・葉山町はそれぞれ住環境や人口が異なります。鎌倉市に妥協が必要な面はあると思います。また、メリット・デメリットの調整に不安はあります。連携の必要性やメリットに関する情報を市民に向けて発信してほしいです。

石井部長：2市に葉山町を加えた形になりましたが、2市での考えは継承しなければなりません。逗子市、葉山町から了承を得た内容は第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画に記載しています。資源化の広域化についてすぐには難しいと思いますが、広域の連携枠組みは必要です。ソフト面での対応を含め、メリットを見出したいと思います。

橋詰委員：資料1-2、2ページ上の方のアンダーライン部分に、「近隣市町の」と書いてありますが、これでは鎌倉市が入りません。「近隣市町とも」、「近隣市町との」など書いた方が良いでしょう。覚書2(1)に、ごみ処理の広域連携及び「ごみ処理広域化実施計画」の策定、という言葉が入っています。分かりやすくするには、資料2-3の2ページ図1-1にも書いた方が良いでしょう。これからつくる話なのでうまく書けないということもあるかもしれませんが、図1-1の鎌倉市の枠外に「覚書に基づき～を検討」などと注記すると分かりやすいと思います。

石井部長：1点目はまさにその通りです。2点目は、鎌倉市と逗子市の間でごみ処理広域化実施計画ができていない状態で葉山町が広域化の枠組みに加わりました。ごみ処理広域化実施計画を策定した時点で一般廃棄物処理基本計画に入れる方が良いでしょうという気がします。

深野会長：これで広域化についての議論は終了といたしますが、基本計画の議論の際に追加があればお願いいたします。

議題 (1) 第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画について

事務局から資料2-1「第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画（素案）に対する意見募集の結果について」、資料2-2「第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画（素案）に対する意見と市の考え方（案）」、資料2-3「第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画（案）」について説明した後、審議を行いました。

深野会長：今回で答申前の審議は最後ですので、最終確認をしたいと思います。前回の審議会で、全体のトーンを強めにした方が良いでしょうというご意見が出されましたので、計画書の中で下線部分を訂正しています。市民意見の数は少ないですが、内容量としては多いと思います。前回と比較して市民の意見については、いかがですか。

安倍職員：前回の再構築の時は戸別収集がテーマとして大きく出ていましたので、かなり多くの意見が出ました。今回件数は少数でしたが、内容が濃いものがありました。

深野会長：以前の審議会で、もう少し計画書を読みやすくした方が良いでしょうという意見がありましたが、今回かなり対応していただいたと思います。基本計画は全体を網羅するため、初めて読んですぐに頭に入るようなものにすることは難しいと思います。

浅川委員：市民の意見を聞くことは大切です。全部の意見を聞くことは難しいと思いますが、それに対して市がどのように答えるのかは重要です。全体的に分かりやすく説明していますが、9ページ48番の質問に対して、「ご意見として承ります。」というのは素っ気ない気がします。回答は難しいとは思いますが、市の考え方などを市民に対して説明する良い機会です。もう少し工夫が必要ではないでしょうか。

安倍職員：48番は、民間委託を減らす、正規職員によるごみ処理体制の再構築など様々な意見が含まれており、全てを集約して回答することが難しく、このような形になりました。検討させていただきます。

奴田委員：この意見の中で、「無駄な出費をなくしてください」というのは必要な出費なら良いということではないでしょうか。4億円かかっても市民が理解し、費用対効果があるような戸別収集ならば良いのだと思います。モデル地区では80パーセント以上の人が戸別収集に賛成です。もう少し説明すれば戸別収集を実現できると思います。残念なのは、代案のないまま4億円かかるから戸別収集をやめるという決定をしたことです。クリーンステーション地区の人に対して戸別収集についてしっかりと周知することが必要です。別にモデル地区を設定して実施してみれば広がってくるはずです。資料2-2の5、9ページが気になります。無駄な出費というところが頭に残ります。

深野会長：5ページにも戸別収集に深い理解を示す意見がありますね。

大道委員：資料2-2を読むと、それぞれ内容は違いますが、市に対して理解を深め、こうあって欲しいという気持ちが込められています。もっとたくさんの意見があれば良いと思います。性別・年代・背景は調べていますか。その様なことを書く項目はありますか。

安倍職員：公表する資料としては個人情報を出さないことになっています。

大道委員：無記名での一般意見という形ではないですね。

安倍職員：意見提出時に氏名・所属団体・電話番号を記載することとなっています。

大道委員：内容がとても深いことが伝わってきます。どの程度の意見の出し方なのか分からなかったの
で質問いたしました。

保坂委員：資料2-2について、長文で書かれていて、コスト面・戸別収集を理解したうえで出された意見だと思います。それに対して市の考え方は何度も見たような内容です。アンケートの結果、戸別収集モデル地区では利便性や個人の責任などの点で賛成されています。コストのことはあまり深く考えずに賛成されている割合も高いと思います。クリーンステーション地区の75.2パーセントは、利便性や効果よりもコストのことで反対されています。一方この地区の戸別収集賛成派はコストをかけてもやるべきという意見だと思います。コスト面を気にされている28番の意見は簡潔なコメントですが、手間がかかっても検討する余地のある折衷案です。アンケート以上に貴重なご意見です。基本計画ができた後で良いと思うのですが、ワークショップのような場でもっと広くコメントをいただいて反映できれば良いと思います。

深野会長：市民の中にもいろいろな意見があります。戸別収集を行わず、有料化や事業系手数料値上げ等で減量化施策をやって行こうと決めたわけですから、その推移を見守ることになります。必要な施策がカムバックすることもあるかもしれません。技術的な進歩や新しい施策の出現があるかもしれません。これからは技術面・市民の意見にアンテナを張りながら、ごみを減量する方向で考えていきたいと思います。市民の意見は参考になります。数は少数でしたが、

内容が濃い意見だと思います。他市では暫定版の基本計画を策定した後に半年で再度計画を作ることはありませんが、鎌倉市は真摯な対応をしていると思います。

保坂委員：この委員を引き受けるときに、バイオマス施設の計画中止がありましたが、国の指針では推奨されています。大学の授業で教えていますが、特に都市部では家庭ごみのバイオマス施設が増えています。北海道では畜産系で利用されています。鎌倉市では小規模で考えても良いと思います。今具体化する段階ではないと思いますが、市民の意見の中にそれに関連する記述がみられます。個人的に進めてほしいと思っています。

植地次長：バイオマスについては、生ごみ中心のご指摘だと思いますが、鎌倉市は植木を堆肥化しています。チップ化するまではバイオマスエネルギー化の過程と同じですので、バイオマスエネルギー化の原料とする方向も検討が必要と認識しています。また、2市1町の連携の中でも事業系生ごみの資源化は共通の課題です。この指摘のような生ごみのバイオマス施設については施設整備の方向性を示していく必要がありますので、まずは事業系の生ごみについて何らかの施策を生み出していきたいと思います。またご報告いたします。

石井部長：第2次ごみ処理計画の中にありました小規模なごみ処理施設の検討は、資料2-3の28ページに残しています。現実的にすぐできるか分かりませんが、考え方については残しています。

橋詰委員：資料2-3の20~21ページのイラストはメッセージがこもっていておもしろいと思いました。基本方針2の教育のイラストは子どもにした方がよいのではないのでしょうか。イラストや写真を入れてメッセージを分かりやすく入れるなど工夫が必要です。

安倍職員：このイラストは方針の内容の一例としてのイラストです。基本方針2の子どもの絵は学生服になっていますが、もう少し小さい子どもの方が良いということですね。

深野会長：計画書はカラー版がありますか。

安倍職員：予算の関係で、白黒版で作成する予定です。ホームページにはカラー版で掲載します。

大道委員：絵が良くできていて分かりやすいので、ポスターでこのページを使ったら良いと思います。

安倍職員：ごみ減量通信は年1回カラー版で発行します。4万部発行し、町内会に回覧しますので、概要をカラー版で配りたいと思います。

波多辺委員：先ほどの意見と重複しますが、事業系ごみを広域化によって資源にすることができたら良いと考えます。非常に大きな課題ですので、是非とも頑張ってくださいたいです。第3次基本計画の策定にあたって広域化を折り込めたことが第1歩で、これから先に進むことが大事です。実現によってさらに広がるのが期待できます。

大道委員：これから先10年の間に劇的にごみが減量するとか、新施設ができた場合、計画は修正されますか。

内海担当課長：計画が10年の場合ですと、通常5年、或いは3年で見直すことはあります。

深野会長：中間見直しで5年以内には見直す、また劇的なことがあれば随時見直すということです。灰の溶融化・資源化によりセメントの原材料にしている例があります。灰は通常リサイクルされず、埋め立てになります。それを止めて北海道・東北・九州のセメント工場へ持って行っています。広域化の連携により、いろいろな可能性がありチャレンジができると思います。難しい点もありますが、メリットを追求することに期待を込めています。皆さまのご発言をいただきましたので、答申前最後の審議を終わります。文章の細かい修正点については、事務局と私で行うことでよろしいですか。

全 員：はい。

その他 1 次回の当審議会の開催日程等について

内海担当課長：今回で第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画の審議は最後となります。様々なご意見・ご提案等をいただき、ありがとうございます。今日いただいたご意見について深野会長と最終調整を行い、8月31日に答申をいただく予定です。それを踏まえて9月末に基本計画として策定する予定です。次回の審議会については改めて日程を調整させていただきます。

深野会長：以上で本日予定しておりました議題すべてを終了いたしました。これをもちまして、第6回鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。